

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
商大附	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
矢 掛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	1 0	1 1	1 2	1 3	1 4	1 5	計
商大附	0	0	0	0	0	0	0
矢 掛	0	0	0	0	0	0	0

矢:三澤魁太 — 小池

文責:谷口 未来(2年生総合コース)

4年連続の出場となった秋季県大会のマウンドには、右腕の三澤魁太(真備中)が上がる。

- 1 回表、商大附属高校の攻撃。先頭に四球を与え、犠打を決められ初回からいきなりピンチを背負う。さらに、二死から死球を与えるが、後続を抑え、無失点で初回を終える。
- 1 回裏、矢掛高校の攻撃。一死から渡邊(矢掛中)が失策で出塁。続く山室(美星中)が犠打を試みるも、二塁封殺で二死一塁。さらに盗塁死でチャンスをつくることできない。
- 2 回表、商大附属高校の攻撃。先頭に四球を与え、連続犠打で二死三塁となる。ここは、投ゴロで無失点。
- 3 回表、商大附属高校の攻撃。一死から失策と捕逸で三塁に走者を背負うが、中軸を抑え無失点。序盤からピンチの連続だが、要所を締める我慢の展開。
- 3 回裏、矢掛高校の攻撃。一死から山崎(高屋中)が失策で出塁。さらに、二死一塁で福尾(井原中)の放った打球が失策となり、先制のチャンスをつかむが、渡邊はフルカウントから三振に抑えられる。
- 4 回表、商大附属高校の攻撃。先頭にストレートの四球を与える。一死から捕手:小池(総社東中)が盗塁を刺し、ピンチを脱する。一死から失策と捕逸で三塁に走者を背負うが、中軸を抑え無失点。
- 5 回表、商大附属高校の攻撃。二死からこの試合四つめの四球を与えるが、本塁は踏ませない。
- 6 回表、商大附属高校の攻撃。一死から痛烈な左前打を放たれるが、後続を抑え無失点。
- 6 回裏、矢掛高校の攻撃。先頭の矢掛が放った打球が暴投となり、外野を転々とする間に、三塁まで到達。しかし、このチャンスに上位打線が機能せず、無得点。矢掛高校は絶好のチャンスをフイにってしまう。
- 7 回表、商大附属高校の攻撃。先頭に左前打を放たれ、この回も走者を背負う。犠打で一死二塁となり、左前打で大ピンチ!!!しかし、一ゴロと三振で無失点。
- 8 回表、商大附属高校の攻撃。先頭に四球を与える嫌な展開も、捕手:小池が一塁走者を刺す好送球を見せる。
- 9 回表、商大附属高校の攻撃。この試合初の三者凡退で、9 回裏の攻撃に良い流れをつくる。
- 9 回裏、矢掛高校の攻撃。ここまで、無安打の矢掛高校打線は、なんとか出塁したい場面だが、打球が前に飛ばず、試合は延長戦へ。
- 10 回表、商大附属高校の攻撃。一死から中前打で走者を背負う。ここで、二塁手後方に飛球があがり、二塁手:高見が倒れ込みながら二塁に送球し、封殺。次打者の四球で一・二塁とされ、相手主軸を迎えるが、気迫の投球で三振を奪い無失点。
- 10 回裏、矢掛高校の攻撃。先頭の山室が痛烈な打球を放つも相手投手が抜群の反応を見せ、投直に倒れる。後続も抑えられ、出塁すらできない。
- 12 回表、商大附属高校の攻撃。二死から四球と盗塁で得点圏に走者を背負うが、捕ゴロに抑える。

- 12 回裏、矢掛高校の攻撃。一死から福尾がこの試合、チーム初となる安打を左前に運び久々の出塁。続く渡邊がヒットエンドランを決め、二塁に走者を進める。ここで、打席に入った山室は捉えた当たりを放つが、中堅手に捕球され、サヨナラならず。
- 13 回表、商大附属高校の攻撃。一死から死球を与えるが無失点。
- 13 回裏、矢掛高校の攻撃。一死から三澤魁太が失策で出塁し、一死二塁。続く山木が犠打を決め、二死三塁。ここで、打席の大山が粘って四球を選び、盗塁を決め、二・三塁。サヨナラの期待を背に、打席には山崎が入る。簡単に追い込まれたが、粘りを見せるも投ゴロとなる。
- 15 回表、商大附属高校の攻撃。一死から、捉えた打球を左翼手：山崎がダイビングキャッチでつかむスーパープレーを見せ、二死。ここで、相手中軸を迎え、三澤魁太が投じた、渾身の 1 9 1 球目で空振り三振を奪い、矢掛ナインは最後の攻撃へ。
- 15 回裏、矢掛高校の攻撃。中軸から始まる好打順であったが、簡単に二死を奪われる。ここで、打席には 15 回を投げきった三澤魁太が向かう。三澤魁太が放った打球は遊撃手の左へ運ぶ内野安打。矢掛高校のこの日二本目の安打で粘りを見せる。ここで、代走：赤木（小北中）を送る。打席の山木はフルカウントまで粘るが、最後は投ゴロでゲームセット。
- 15 回規定により引き分けとなり、翌日再試合となった。

矢掛高校は商大附属高校と 0—0 で引き分けとなった。今日は、県大会の初戦で緊張もあり思うように自分のプレーができていない選手が多いように思えた。守備面での焦りからくる送球ミスや、打撃面での凡打の繰り返しなど、練習試合での課題がそのまま現れた試合であった。しかし、要所で見せた集中力や延長戦に入ってから打線の粘りなど、光も見いだすことができた。課題は、15 三振を喫した打線の無策ぶりと、9 四死球と乱れた制球ではないだろうか。三澤魁太は 1 9 1 球、相手投手は 2 1 0 球と熱投が会場を沸かせた。明日の 1 0：0 0 からなりわ運動公園野球場で行われる再試合では、今日の課題をしっかり頭に入れ、同じことをしないよう試合に臨んでほしい。

昨年は果たせなかった県大会初戦突破に向け、勝負の日曜日にして欲しい。

新チームの戦績

15 勝 10 敗 4 分